

12課

偽教師への対処

9月19日

安息日午後

9月12日

暗証聖句

わたしたちの戦いの武器は、肉のものではなく、神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである。わたしたちはさまざまな議論を破り、(Ⅱコリント 10:4、口語訳)

わたしたちの戦いの武器は肉のものではなく、神に由来する力であって要塞も破壊するに足ります。わたしたちは屈辱を打ち破り、(Ⅱコリント 10:4、新共同訳)

今週の聖句

Ⅱコリント 10:1~17、エレミヤ 9:24、Ⅱコリント 11:1~15、22~28、
Ⅱコリント 12:20、21、Ⅱコリント 13:5

今週のテーマ

パウロはすでに多くの問題を抱えていたにもかかわらず、さらにもう一つ、対処しなければならない問題が生じました。教会内の偽教師という問題です。偽教師たちはパウロとその働きに反対していました。さらに悪いことに、彼らは、コリントの教会員たちを誘惑していたのです。パウロは、この問題に対する戦いを霊的な戦いと呼んでいます。

それは誇張でしょうか。決してそうではありません。パウロは、結局のところ、これらの人々が自分にではなく、キリストご自身に敵対していることを知っていたのです。彼は、部下に対する自分の権力や権威を正当化するために、自分の評判を維持することにこだわるような、自己陶酔的な指導者ではありませんでした。彼は、宣べ伝えるよう自分に託されたメッセージが生死に関わるものであり、永遠の結果を伴うことと、自分が神ご自身によってそのために遣わされたことも知っていました。「神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロ」〔口語訳「神の御旨により召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロ」〕(Ⅰコリ 1:1)。

偽りの教えに関して、教会は聖書の権威に基づき、愛をもって、しかし断固とした態度で行動すべきです。福音のメッセージは、魂に永遠の希望を与えるために、損なわれることなく純粋なまま保たなければなりません。

I コリ 1:1 (新共同訳)

1:1 神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、

I コリ 1:1 (口語訳)

1:1 神の御旨により召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、

日曜日 9月13日 霊的な戦い

問1 IIコリント 10:1～11 を読んでください。コリントの信徒へのパウロの対処における優しさは、時として弱さと混同されることがありました。この箇所のどんな言葉や表現が、コリントの偽教師の問題に立ち向かうパウロの勇気を示しているでしょうか。

パウロは、IIコリント10章を次のように非常に個人的な内容で始めています。「さて、……このパウロが、……あなたがたに願います」〔口語訳「さて、……このわたしパウロが、……あなたがたに勧める」〕(IIコリ 10:1)。

この言葉は、教会に浸透していた偽りの教えを彼がどれほど憂慮していたかを示しています。IIコリント10:1におけるパウロの言葉は、彼が遠方から手紙を書くときは恐ろしい暴漢のようだが、直接人々に会って応対するときは哀れな臆病者のようだという敵対者たちの非難に皮肉を込めて言及するものです(同 10:10、11)。パウロは、弱さのように見えるものを、キリストの力強い優しさと心の広さ(寛大さ)と見るべきだと応じています。

偽教師たちには、大胆さと確信をもって立ち向かわねばなりません(IIコリ 10:2)、そこにはキリストの心の広さ(口語訳:寛大さ)(同 10:1)が伴うべきです。イエスはかつて、「わたしは柔和で謙遜な者だ」〔口語訳「わたしは柔和で心のへりくだった者である」〕(マタ11:29)と言われました。しかし、イエスはまた、神殿で両替人の台をひっくり返し、彼らを強盗と呼んで、大胆に立ち向かわれました(同 21:12、13)。さらに、ファリサイ派の人々(パリサイ人)を偽善者、白く塗った墓だと、面と向かって非難されました(同 23:23～27)。イエスと同様に、パウロも、私たちが神のあらゆる武具を用いる必要のある霊的な戦いの中にいることを知っていたのです(エフェ[エペ] 6:12～17)。

IIコリント10章において、パウロは軍事的な言い回しを用いていますが(IIコリ 10:3～6)、それは命がかかっていたからです。これは単なる人間同士の戦いではなく、人々をキリストに勝ち取るための神の戦いなのです。このことに関連して、あらゆる偽りの主張や高慢な意見は、神の言葉に基づいて正面から対処され、打ち砕かれなければなりません。そうすることで、「あらゆる思惑をとりこにしてキリストに従わせ(る)」〔口語訳「すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ(る)」〕(同 10:5)のです。

この霊的な戦いにおいて、パウロはキリストの権威によって行動していますが、この権威の目的は、打ち倒すことではなく、造り上げる〔口語訳:倒すためではなく高める〕ことです(IIコリ 10:8)。霊的指導者にとって、自分たちは神の権威によって行動していると主張するのは容易ですが、彼らは、その権威がキリストから与えられたものであることを忘れてはなりませんし、キリストのように優しく謙遜でなければな

りません。パウロがキリストから与えられた権威を主張したのは、コリントの信徒がキリストに対する忠誠心を失いかけていると心配したからでした。

【参考】英語テキストには、以下の英文があります。

How can we be simultaneously gentle and bold when dealing with false teachers? Why must we be both?

偽教師たちに対処する際、どうすれば優しさと大胆さを両立させることができるのでしょうか。なぜその両方が必要なのでしょう。

82

Ⅱコリ 10:1~11 (新共同訳)

10:1 さて、あなたがたの間で面と向かっては弱腰だが、離れていると強硬な態度に出る、と思われている、このわたしパウロが、キリストの優しさと心の広さをもって、あなたがたに願います。

10:2 わたしたちのことを肉に従って歩んでいいると見なしている者たちに対しては、勇敢に立ち向かうつもりです。わたしがそちらに行くときには、そんな強硬な態度をとらずに済むようにと願っています。

10:3 わたしたちは肉において歩んでいますが、肉に従って戦うではありません。

10:4 わたしたちの戦いの武器は肉のものではなく、神に由来する力であって要塞も破壊するに足ります。わたしたちは理屈を打ち破り、

10:5 神の知識に逆らうあらゆる高慢を打ち倒し、あらゆる思惑をとりこにしてキリストに従わせ、

10:6 また、あなたがたの従順が完全なものになるとき、すべての不従順を罰する用意ができています。

10:7 あなたがたは、うわべのことだけ見えています。自分がキリストのものだと信じている人がいれば、その人は、自分と同じくわたしたちもキリストのものであることを、もう一度考えてみるがよい。

10:8 あなたがたを打ち倒すためではなく、造り上げるために主がわたしたちに授けてくださった権威について、わたしがいささか誇りすぎたとしても、恥にはならないでしょう。

Ⅱコリ 10:1~11 (口語訳)

10:1 さて、「あなたがたの間にいて面と向かってはおとなしいが、離れていると、気が強くなる」このパウロが、キリストの優しさ、寛大さをもって、あなたがたに勧める。

10:2 わたしたちを肉に従って歩いているかのように思っている人々に対しては、わたしは勇敢に行動するつもりであるが、あなたがたの所では、どうか、そのような思いきったことをしないですむようでありたい。

10:3 わたしたちは、肉にあって歩いているが、肉に従って戦っているのではない。

10:4 わたしたちの戦いの武器は、肉のものではなく、神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである。わたしたちはさまざまな議論を破り、

10:5 神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、

10:6 そして、あなたがたが完全に服従した時、すべて不従順な者を処罰しようと、用意しているのである。

10:7 あなたがたは、うわべの事だけを見ている。もしある人が、キリストに属する者だと自任しているなら、その人はもう一度よく反省すべきである。その人がキリストに属する者であるように、わたしたちもそうである。

10:8 たとい、あなたがたを倒すためではなく高めるために主からわたしたちに賜わった権威について、わたしがやや誇りすぎたとしても、恥にはなるまい。

10:9 わたしは手紙であなたがたを脅していると思われたくない。

10:10 わたしのことを、「手紙は重々しく力強いが、実際に会ってみると弱々しい人で、話もつまらない」と言う者たちがいるからです。

10:11 そのような者は心得ておくがよい。離れていて手紙で書くわたしたちと、その場に居合わせてふるまうわたしたちとに変わりはありません。

マタ 11:29 (新共同訳)

11:29 わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。

マタ 21:12、13 (新共同訳)

21:12 それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買いをしていた人々を皆追い出し、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けを倒された。

12:13 そして言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家と呼ばれるべきである。』/ところが、あなたがたは/それを強盗の巢にしている。」

マタ 23:23～27 (新共同訳)

23:23 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者は不幸だ。薄荷、いのんど、茴香の十分の一は献げるが、律法の中で最も重要な正義、慈悲、誠実はないがしろにしているからだ。これこそ行ふべきことである。もとより、十分の一の献げ物もないがしろにしてはならないが。

23:24 ものの見えない案内人、あなたたちはぶよ一匹さえも漉して除くが、らくだは飲み込んでいる。

23:25 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者は不幸だ。杯や皿の外側はきれいにするが、内側は強欲と放縦で満ちているからだ。

23:26 ものの見えないファリサイ派の人々、まず、杯の内側をきれいにせよ。そうすれば、外側もきれいになる。

23:27 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。外側は美し

10:9 ただ、わたしは、手紙であなたがたをおどしているのだと、思われたくはない。

10:10 人は言う、「彼の手紙は重味があって力強いが、会って見ると外見は弱々しく、話はつまらない」。

10:11 そういう人は心得ているがよい。わたしたちは、離れていて書きおく手紙の言葉とおりに、一緒にいる時でも同じようにふるまうのである。

マタ 11:29 (口語訳)

11:29 わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

マタ 21:12、13 (口語訳)

21:12 それから、イエスは宮にはいられた。そして、宮の庭で売り買いしていた人々をみな追い出し、また両替人の台や、はとを売る者の腰掛けをくつがえされた。

12:13 そして彼らに言われた、『わたしの家は、祈の家となえらるべきである』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巢にしている」。

マタ 23:23～27 (口語訳)

23:23 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざである。はっか、いのんど、クミンなどの薬味の十分の一を宮に納めておりながら、律法の中でもっと重要な、公平とあわれみと忠実とを見のがしている。それもしなければならぬが、これも見のがしてはならない。

23:24 盲目な案内者たちよ。あなたがたは、ぶよはこしているが、らくだはのみこんでいる。

23:25 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざである。杯と皿との外側はきよめるが、内側は貪欲と放縦とで満ちている。

23:26 盲目なパリサイ人よ。まず、杯の内側をきよめるがよい。そうすれば、外側も清くなるであろう。

26:27 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざである。あなたがたは白く塗った墓に似ている。外

く見えるが、内側は死者の骨やあらゆる汚れて満ちている。

エフェ 6:12~17 (新共同訳)

6:12 わたしたちの戦いは、血肉を相手にするのではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。

6:13 だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。

6:14 立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、

6:15 平和の福音を告げる準備を履物としなさい。

6:16 なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。

6:17 また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。

側は美しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆる不潔なものでいっぱいである。

エペ 6:12~17 (口語訳)

6:12 わたしたちの戦いは、血肉に対するのではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

6:13 それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。

6:14 すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ、

6:15 平和の福音の備えを足にはき、

6:16 その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。

6:17 また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。

月曜日 9月14日 主を誇ること

きのうの研究で見たように、パウロと仲間の働き人は、自分たちの働きを霊的な戦いとし、神の武具を用いて戦いました。きょうは、偽教師たちが人間の基準で行動していたことを学びます。彼らは不適切に誇り、パウロはただ主を誇りました。「誇る者は主を誇れ」(口語訳「誇る者は主を誇るべきである」)(Ⅱコリ 10:17)と、彼が書いたとおりです。

問2 Ⅱコリント 10:13~17 を読んでください。競争的な雰囲気は、福音を宣べ伝える働きに、どんな害を及ぼしますか。

パウロが用いた自画自賛的な言い回しは、何世紀にもわたって解釈者たちの関心を引いてきました。しかし古代世界では、自己を誇ることは一般的な習慣であり、聴衆の反感を買わないよう社会的慣習によって抑制されていました。パウロはそのような慣習を知っており、それに従っています。さらに彼は、自分の誇り方が偽教師たちのそれとは一線を画すことを明確にしています。パウロは主を誇ります(Ⅱコリ 10:17)。この言葉は旧約聖書からの引用です。「誇る者は、この事を誇るがよい/目覚めてわたしを知ること。わたしこそ主。この地に慈しみと正義と恵みの業を行う」(口語訳「誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さとくあって、わたしを知っていること、わたしが主であって、地に、いつくしみと公平と正義を行っている者であることを知ることがそれである」)(エレ 9:23(口語訳 9:24))。パウロは、エレミヤ書を引用すること

で、焦点となっているのがキリスト、つまりキリストの慈しみと正義と恵みの業であることを示しています。

言い換えれば、パウロの誇りは、キリストにおける神の御業に焦点を合わせているのです。ですから、彼の誇りは聖書的であり、それゆえ不快なものではありません。一方、パウロの敵対者たちは、互いに比較することで、競争的な雰囲気陥っていました。これは愚かなことです(Ⅱコリ 10:12)。

Ⅱコリント10:14～16でパウロは、コリントでもコリント以外の地域でも、彼の働きの主要な焦点が福音を宣べ伝えることであると示唆しています。イエスに対する愛が、キリストの死と復活に見いだされる救いの良き知らせを絶えず語るよう、彼を駆り立てたのでした。

コリントの偽教師たちが自己推薦していたのとは異なり、パウロは神から推薦され、適格者として認められていました(同 10:12～18)。彼は、「神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となった」〔口語訳「神の御旨により召されてキリスト・イエスの使徒となった」〕(Ⅰコリ 1:1)のでした。彼は生涯、この召しに忠実でした(Ⅱテモ4:7)。

Ⅱコリント10:12～18を読み直してください。教会の指導者、あるいは教会員でさえ、どうすれば競争的な雰囲気を避けることができますか。なぜ、本当に重要でないことに巻き込まれやすいのでしょうか。

83

Ⅱコリ 10:12～18 (新共同訳)

10:12 わたしたちは、自己推薦する者たちと自分を同列に置いたり、比較したりしようなどとは思いません。彼らは仲間どうしで評価し合い、比較し合っていますが、愚かなことです。

10:13 わたしたちは限度を超えては誇らず、神が割り当ててくださった範囲内で誇る、つまり、あなたがたのところまで行ったということで誇るのです。

10:14 わたしたちは、あなたがたのところまでは行かなかったかのように、限度を超えようとしているではありません。実際、わたしたちはキリストの福音を携えてだれよりも先にあなたがたのもとを訪れたのです。

10:15 わたしたちは、他人の労苦の結果を限度を超えて誇るようなことはしません。ただ、わたしたちが希望しているのは、あなたがたの信仰が成長し、あなたがたの間でわたしたちの働きが定められた範囲内でますます増大すること、

Ⅱコリ 10:12～18 (口語訳)

10:12 わたしたちは、自己推薦をするような人々と自分を同列においたり比較したりはしない。彼らは仲間同志で互にはかり合ったり、互に比べ合ったりしているが、知恵のないいわげである。

10:13 しかし、わたしたちは限度をこえて誇るようなことはしない。むしろ、神が割り当てて下さった地域の限度内で誇るにすぎない。わたしはその限度にしたがって、あなたがたの所まで行ったのである。

10:14 わたしたちは、あなたがたの所まで行けない者であるかのように、むりに手を延ばしているのではない。事実、わたしたちが最初にキリストの福音を携えて、あなたがたの所までも行ったのである。

10:15 わたしたちは限度をこえて、他人の働きを誇るようなことはしない。ただ、あなたがたの信仰が成長するにつれて、わたしたちの働きの範囲があなたがたの中でますます大きくなることを望んでいる。

10:16 あなたがたを越えた他の地域にまで福音が告げ知らされるようになること、わたしたちが他の人々の領域で成し遂げられた活動を誇らないことです。

10:17 「誇る者は主を誇れ。」

10:18 自己推薦する者ではなく、主から推薦される人こそ、適格者として受け入れられるのです。

エレ 9:23 (新共同訳)

9:23 むしろ、誇る者は、この事を誇るがよい/目覚めてわたしを知ることを。わたしこそ主。この地に慈しみと正義と恵みの業を行う事/その事をわたしは喜び、と主は言われる。

I コリ 1:1 (新共同訳)

1:1 神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、

II テモ 4:7 (新共同訳)

4:7 わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。

10:16 こうして、わたしたちはほかの人の地域ですでになされていることを誇ることはせずに、あなたがたを越えたさきぎにまで、福音を宣べ伝えたい。

10:17 誇る者は主を誇るべきである。

10:18 自分で自分を推薦する者ではなく、主に推薦される人こそ、確かな人なのである。

エレ 9:24 (口語訳)

9:24 誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さとくあって、わたしを知っていること、わたしが主であって、地に、いくしみと公平と正義を行っている者であることを知ることがそれである。わたしはこれらの事を喜びと、主は言われる。」

I コリ 1:1 (口語訳)

1:1 神の御旨により召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、

II テモ 4:7 (口語訳)

4:7 わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。

火曜日 9月15日 偽教師を見抜く

新約聖書には、クリスチャン共同体における偽教師に対する警告がいくつか含まれています。イエスご自身も弟子たちに、同じことについて警告されました(マタ 7:15~20)。使徒たちもこの点に注意を促しています(ガラ 1:6~9、I テモ 6:3~5、II ペト [ペテ] 2:1~3)。

問3 II コリント 11:1~15 を読んでください。パウロは、これらの偽教師たちによって直面させられている問題を、どのように描いていますか。

パウロは、偽教師たちの働きを暴露すると同時に、自分の宣教活動がキリスト中心であることを指摘しています。彼はコリントの教会を花嫁にたとえ、自分のことを、花嫁をキリストにささげる責任を負う父親と見なしています(II コリ 11:2)。彼がそうするのは、教会を愛しているからです(同 11:11)。それゆえ、パウロは教会から支援を受ける権利があったにもかかわらず、教会に経済的な負担をかけることを望みませんでした(同 11:7~12)。

一方、「大使徒たち」(これは皮肉を込めて偽教師たちを指しているようです)は、エバを欺いた蛇にたとえられています(II コリ 11:3)。エデンの園のサタンのように、コリントの偽教師たちは、欺瞞と腐敗によって特徴づけられています(同 11:3, 4)。パウ

口のおもな懸念は、彼らがコリントの信徒をキリストに対する誠実な献身と忠誠からそらしてしまうことでした。

侵入者たちは、パウロが宣べ伝えたものとは異なるメッセージ、すなわち異なるイエスや異なる福音を説いていました(Ⅱコリ 11:4)。これは、イエスを宣べ伝えるすべての人が神から任命された器ではないことを示しています。その点に関して、イエスご自身がこう言われました。「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである」〔口語訳「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである」〕(マタ 7:21)。ガラテヤ 1:6～9でパウロは、異なる福音を宣べ伝える者は自らに呪いを招くと述べていますが、コリントにはこの種の誤りを容認する者たちがいました。

パウロは偽使徒たちを、「ずる賢い働き手であって、キリストの使徒を装っている」〔口語訳「人をだます働き人であって、キリストの使徒に擬装しているにすぎない」〕(Ⅱコリ 11:13)と述べて暴露しています。彼らは、ちょうど「サタンでさえ光の天使を装(い)」、「サタンに仕える者たちが、義に仕える者を装う」〔口語訳「サタンも光の天使に擬装する」、「サタンの手下どもが、義の奉仕者のように擬装した」〕(同 11:14, 15)のように、キリストの使徒に変装するのです。なんと悲劇的な状況でしょう。キリストの僕と称しながら、サタンの手先として働いているのです。パウロは、「彼らは、自分たちの業に応じた最期を遂げるでしょう」〔口語訳「彼らの最期は、そのしわざに合ったものとなろう」〕(同 11:15)という言葉で自分の考えを締めくくっています。

【参考】英語テキストには続きに一段落あります。

Look at how strongly he is reacting to error in the church! What should that say to us, as well?

教会の過ちに対して、彼(パウロ)がどれほど強く反応しているか、考えてみましょう！それは、私たちに何を伝えようとしているのでしょうか。

84

マタ 7:15～20 (新共同訳)

7:15 「偽預言者を警戒しなさい。彼らは羊の皮を身にまとい、あなたがたのところに来るが、その内側は貪欲な狼である。
7:16 あなたがたは、その実で彼らを見分ける。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるだろうか。

7:17 すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。

7:18 良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が良い実を結ぶこともできない。

7:19 良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。

7:20 このように、あなたがたはその実で彼らを見分ける。」

マタ 7:15～20 (口語訳)

7:15 にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。
7:16 あなたがたは、その実によって彼らを見わけろ。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。

7:17 そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。

7:18 良い木が悪い実をならせることはないし、悪い木が良い実をならせることはできない。

7:19 良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる。

7:20 このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。

ガラ 1:6~9 (新共同訳)

1:6 キリストの恵みへ招いてくださった方から、あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、わたしはあきれ果てています。

1:7ほかの福音といっても、もう一つ別の福音があるわけではなく、ある人々があなたがたを惑わし、キリストの福音を覆そうとしているにすぎないのです。

1:8しかし、たとえわたしたち自身であれ、天使であれ、わたしたちがあなたがたに告知知らせたものに反する福音を告知知らせようとするならば、呪われるがよい。

1:9わたしたちが前にも言っておいたように、今また、わたしは繰り返して言います。あなたがたが受けたものに反する福音を告知知らせる者がいれば、呪われるがよい。

I テモ 6:3~5 (新共同訳)

6:3異なる教えを説き、わたしたちの主イエス・キリストの健全な言葉にも、信心に基づく教えにも従わない者がいれば、

6:4その者は高慢で、何も分からず、議論や口論に病みつきのままになっています。そこから、ねたみ、争い、中傷、邪推、

6:5絶え間ない言い争いが生じるのです。これらは、精神が腐り、真理に背を向け、信心を利得の道と考える者の間で起こるものです。

II ペテ 2:1~3 (新共同訳)

2:1かつて、民の中に偽預言者がいました。同じように、あなたがたの中にも偽教師が現れるにちがいありません。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを贖ってくださった主を拒否しました。自分の身に速やかな滅びを招いており、

2:2しかも、多くの人が彼らのみだらな楽しみを見做っています。彼らのために真理の道はそしられるのです。

2:3彼らは欲が深く、うそ偽りであなたがたを食い物にします。このような者たちに対する裁きは、昔から怠りなくなされていて、彼らの滅びも滞ることはありません。

ガラ 1:6~9 (口語訳)

1:6あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でない。

1:7それは福音というべきものではなく、ただ、ある種の人々があなたがたをかき乱し、キリストの福音を曲げようとしているだけのことである。

1:8しかし、たとえわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろわるべきである。

1:9わたしたちが前にも言っておいたように、今わたしは重ねて言う。もしある人が、あなたがたの受け入れた福音に反することを宣べ伝えているなら、その人はのろわるべきである。

I テモ 6:3~5 (口語訳)

6:3もし違ったことを教えて、わたしたちの主イエス・キリストの健全な言葉、ならびに信心にかなう教に同意しないような者があれば、

6:4彼は高慢であって、何も知らず、ただ論議と言葉の争いにと病みついている者である。そこから、ねたみ、争い、そして、さいぎの心が生じ、

6:5また知性が腐って、真理にそむき、信心を利得と心得る者どもの間に、はてしないいがみ合いが起るのである。

II ペテ 2:1~3 (口語訳)

2:1しかし、民の間に、にせ預言者が起ったことがあるが、それと同じく、あなたがたの間にも、にせ教師が現れるであろう。彼らは、滅びに至らせる異端をひそかに持ち込み、自分たちをあがなって下った主を否定して、すみやかな滅亡を自分の身に招いている。

2:2また、大ぜいの人々が彼らの放縦を見習い、そのために、真理の道がそしりを受けるに至るのである。

2:3彼らは、貪欲のために、甘言をもってあなたがたをあざむき、利をむさぼるであろう。彼らに対するさばきは昔から猶予なく行われ、彼らの滅亡も滞ることはありません。

ません。

Ⅱコリ 11:1～15 （新共同訳）

11:1 わたしの少しばかりの愚かさを我慢してくれたらよいが。いや、あなたがたは我慢してくれています。

11:2 あなたがたに対して、神が抱いておられる熱い思いをわたしも抱いています。なぜなら、わたしはあなたがたを純潔な処女として一人の夫と婚約させた、つまりキリストに献げたからです。

11:3 ただ、エバが蛇の悪だくみで欺かれたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔とからそれてしまうのではないかと心配しています。

11:4 なぜなら、あなたがたは、だれかがやって来てわたしたちが宣べ伝えたのとは異なったイエスを宣べ伝えても、あるいは、自分たちが受けたことのない違った霊や、受け入れたことのない違った福音を受けることになっても、よく我慢しているからです。

11:5 あの大使徒たちと比べて、わたしは少しも引けは取らないと思う。

11:6 たとえ、話し振りは素人でも、知識はそうではない。そして、わたしたちはあらゆる点あらゆる面で、このことをあなたがたに示してきました。

11:7 それとも、あなたがたを高めるために自分を低くして神の福音を無報酬で告げ知らせたからといって、わたしは罪を犯したことになるのでしょうか。

11:8 わたしは、他の諸教会からかすめ取るようにしてまでも、あなたがたに奉仕するための生活費を手に入れました。

11:9 あなたがたのもとで生活に不自由したとき、だれにも負担をかけませんでした。マケドニア州から来た兄弟たちが、わたしの必要を満たしてくれたからです。そして、わたしは何事においてもあなたがたに負担をかけないようにしてきましたし、これからもそうするつもりです。

11:10 わたしの内にあるキリストの真実にかけて言います。このようにわたしが誇るのを、アカイア地方で妨げられることは決してありません。

11:11 なぜだろうか。わたしがあなたがたを愛していないからだろうか。神がご

ない。

Ⅱコリ 11:1～15 （口語訳）

11:1 わたしが少しばかり愚かなことを言うのを、どうか、忍んでほしい。もちろん忍んでくれるのだ。

11:2 わたしは神の熱情をもって、あなたがたを熱愛している。あなたがたを、きよいおとめとして、ただひとり男子キリストにささげるために、婚約させたのである。

11:3 ただ恐れるのは、エバがへびの悪巧みで誘惑されたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する純情と貞操とを失いはしないかということである。

11:4 というのは、もしある人がきて、わたしたちが宣べ伝えもしなかったような異なるイエスを宣べ伝え、あるいは、あなたがたが受けたことのない違った霊を受け、あるいは、受け入れたことのない違った福音を聞く場合に、あなたがたはよくもそれを忍んでいる。

11:5 事実、わたしは、あの大使徒たちにいささかも劣ってはいないと思う。

11:6 たとい弁舌はつたなくても、知識はそうでない。わたしは、事ごとに、いろいろの場合に、あなたがたに対してそれを明らかにした。

11:7 それとも、あなたがたを高めるために自分を低くして、神の福音を価なしにあなたがたに宣べ伝えたことが、罪になるのだろうか。

11:8 わたしは他の諸教会をかすめたと言われながら得た金で、あなたがたに奉仕し、

11:9 あなたがたの所にいて貧乏をした時にも、だれにも負担をかけたことはなかった。わたしの欠乏は、マケドニアからきた兄弟たちが、補ってくれた。こうして、わたしはすべての事につき、あなたがたに重荷を負わせまいと努めてきたし、今後も努めよう。

11:10 わたしの内にあるキリストの真実にかけて言う、この誇がアカイア地方で封じられるようなことは、決してない。

11:11 なぜであるか。わたしがあなたがたを愛していないからか。それは、神が

存じです。

11:12 わたしは今していることを今後も続けるつもりです。それは、わたしたちと同様に誇れるようにと機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切るためです。

11:13 こういう者たちは偽使徒、ずる賢い働き手であって、キリストの使徒を装っているのです。

11:14 だが、驚くには当たりません。サタンでさえ光の天使を装うのです。

11:15 だから、サタンに仕える者たちが、義に仕える者を装うことなど、大したことではありません。彼らは、自分たちの業に応じた最期を遂げるでしょう。

マタ 7:21 (新共同訳)

7:21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。

ご存じである。

11:12 しかし、わたしは、現在していることを今後もしていこう。それは、わたしたちと同じように誇りうる立ち場を得ようと機会をねらっている者どもから、その機会を断ち切ってしまうためである。

11:13 こういう人々はにせ使徒、人をだます働き人であって、キリストの使徒に擬装しているにすぎないからである。

11:14 しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから。

11:15 だから、たとえサタンの手下どもが、義の奉仕者のように擬装したとしても、不思議ではない。彼らの最期は、そのしわざに合ったものとなる。

マタ 7:21 (口語訳)

7:21 わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。

水曜日 9月16日 福音のために苦しむ

偽教師たちがサタンの手先であることを暴露したあと(Ⅱコリ 11:1~15)、パウロは今や、愚か者のように少しばかり自慢することで、彼らのやり方を「まねて」います(同 11:16~21)。それは、コリントの信徒に、偽教師たちの言葉に耳を傾けることがいかに愚かなことであるかを悟らせるためでした。もしコリントの信徒が彼らを高く評価するのであれば、パウロはさらに高い評価を受けるに値しました。福音のために受けた数々の苦しみは、彼がキリストの忠実な僕であったことを示しています(同 11:22, 23)。

問4 Ⅱコリント 11:22~28 を読んでください。ここでパウロは何を言おうとしているのでしょうか。

ユダヤ人であるというパウロの資格は、偽教師たちの資格と同じですが(Ⅱコリ 11:22)、キリストに対する彼の奉仕は、彼らの奉仕を圧倒しています(同 11:23)。「(彼らは)キリストに仕える者なのか」[口語訳「彼らはキリストの僕なのか」]と彼は尋ね、その答えとして、「わたしは彼ら以上にそうなのです」[口語訳「わたしは彼ら以上にそうである」]と述べています。彼の苦労は遥かにずっと多く、投獄もずっと頻繁で、鞭打ちはずっと激しいものでした。

しかし、それだけではありません。彼の苦しみの一覧には、39回の鞭打ちが5度(Ⅱコリ 11:24)、鞭で打たれたこと、石を投げつけられたこと、難船、海での漂流

(同 11:25)、旅での難、川の難、盗賊の難、同胞からの難(同国民の難)、異邦人からの難(異邦人の難)、町での難(都会の難)、荒れ野での難(荒野の難)、海上の難、偽の兄弟たちからの難(にせ兄弟の難)(同 11:26)、過酷な苦勞、疲れ果てるような骨折り、眠れぬ夜、飢え、渇き、食料不足、寒さ、裸(同 11:27)が含まれています。それだけでは足りないかのように、彼は教会に対する深い心配のために、精神的な苦悩にも対処しなければなりません(同 11:28)。

キリストの真の僕だけが、福音のためにこのような苦しみを進んで受け入れるのでしょうか。もしパウロが自分の苦しみを本当に誇るのであれば、語るべきことはたくさんありました。しかし、手紙の次の部分は、パウロの誇りの根拠が、キリストのために彼がしたことではなく、彼のためにキリストがなされたことにあることを示しています。パウロは、神の力が人間の弱さの中でこそ、より顕著にあらわれることを知っていました(同 12:9、10)。神はパウロの身に一つのとげを与えることで(同 12:7)、彼が自分の功績を誇ることがないように守られました。これによって、パウロは謙虚になり、自分の弱さを自覚し、神の力に頼り、神の恵みと憐れみをより多く受けられる状態にあり続けたのでした。

【参考】英語テキストには以下の英文があります。

Have you also been suffering for the sake of the gospel? What have you learned from this experience? How can the way Paul dealt with his sufferings help you deal with yours?

あなたも福音のために苦難に耐えてきましたか。その経験から何を学びましたか。パウロが苦しみと向き合った姿勢は、あなたが自分の苦しみと向き合う上で、どのように役立ちますか。

85

Ⅱ コリ 11:1～28 (新共同訳)

11:1 わたしの少しばかりの愚かさを我慢してくれたらよいが、いや、あなたがたは我慢してくれています。

11:2 あなたがたに対して、神が抱いておられる熱い思いをわたしも抱いています。なぜなら、わたしはあなたがたを純潔な処女として一人の夫と婚約させた、つまりキリストに献げたからです。

11:3 ただ、エバが蛇の悪だくみで欺かれたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔とからそれてしまうのではないかと心配しています。

11:4 なぜなら、あなたがたは、だれかがやって来てわたしたちが宣べ伝えたのとは異なったイエスを宣べ伝えても、あるいは、自分たちが受けたことのない違った霊や、受け入れたことのない違った福

Ⅱ コリ 11:1～28 (口語訳)

11:1 わたしが少しばかり愚かなことを言うのを、どうか、忍んでほしい。もちろん忍んでくれるのだ。

11:2 わたしは神の熱情をもって、あなたがたを熱愛している。あなたがたを、きよいおとめとして、ただひとり男子キリストにささげるために、婚約させたのである。

11:3 ただ恐れるのは、エバがへびの悪巧みで誘惑されたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する純情と貞操とを失いはしないかということである。

11:4 というのは、もしある人がきて、わたしたちが宣べ伝えもしなかったような異なるイエスを宣べ伝え、あるいは、あなたがたが受けたことのない違った霊を受け、あるいは、受け入れたことのない

音を受けることになっても、よく我慢しているからです。

11:5 あの大使徒たちと比べて、わたしは少しも引けは取らないと思う。

11:6 たとえ、話し振りは素人でも、知識はそうではない。そして、わたしたちはあらゆる点あらゆる面で、このことをあなたがたに示してきました。

11:7 それとも、あなたがたを高めるために、自分を低くして神の福音を無報酬で告げ知らせたからといって、わたしは罪を犯したことになるのでしょうか。

11:8 わたしは、他の諸教会からかすめ取るようにしてまでも、あなたがたに奉仕するための生活費を手に入れました。

11:9 あなたがたのもので生活に不自由したとき、だれにも負担をかけませんでした。マケドニア州から来た兄弟たちが、わたしの必要を満たしてくれたからです。そして、わたしは何事においてもあなたがたに負担をかけないようにしてきました、これからもそうするつもりです。

11:10 わたしの内にあるキリストの真実にかけて言います。このようにわたしが誇るのを、アカイア地方で妨げられることは決してありません。

11:11 なぜだろうか。わたしがあなたがたを愛していないからだろうか。神がご存じです。

11:12 わたしは今していることを今後も続けるつもりです。それは、わたしたちと同様に誇れるようにと機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切るためです。

11:13 こういう者たちは偽使徒、ずる賢い働き手であって、キリストの使徒を装っているのです。

11:14 だが、驚くには当たりません。サタンでさえ光の天使を装うのです。

11:15 だから、サタンに仕える者たちが、義に仕える者を装うことなど、大したことではありません。彼らは、自分たちの業に応じた最期を遂げるでしょう。

11:16 もう一度言います。だれもわたしを愚か者と思わないでほしい。しかし、もしあなたがたがそう思うなら、わたしを愚か者と見なすがよい。そうすれば、わたしも少しは誇ることができる。

違った福音を聞く場合に、あなたがたはよくもそれを忍んでいる。

11:5 事実、わたしは、あの大使徒たちにいささかも劣ってはいないと思う。

11:6 たとい弁舌はつたなくても、知識はそうでない。わたしは、事ごとに、いろいろの場合に、あなたがたに対してそれを明らかにした。

11:7 それとも、あなたがたを高めるために自分を低くして、神の福音を価なしにあなたがたに宣べ伝えたことが、罪になるのだろうか。

11:8 わたしは他の諸教会をかすめたと言われながら得た金で、あなたがたに奉仕し、

11:9 あなたがたの所にいて貧乏をした時にも、だれにも負担をかけたことはなかった。わたしの欠乏は、マケドニヤからきた兄弟たちが、補ってくれた。こうして、わたしはすべての事につき、あなたがたに重荷を負わせまいと努めてきたし、今後も努めよう。

11:10 わたしの内にあるキリストの真実にかけて言う、この誇がアカイア地方で封じられるようなことは、決してない。

11:11 なぜであるか。わたしがあなたがたを愛していないからか。それは、神がご存じである。

11:12 しかし、わたしは、現在していることを今後もしていこう。それは、わたしたちと同じように誇りうる立場を得ようと機会をねらっている者どもから、その機会を断ち切ってしまうためである。

11:13 こういう人々はにせ使徒、人をだます働き人であって、キリストの使徒に擬装しているにすぎないからである。

11:14 しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから。

11:15 だから、たといサタンの手下どもが、義の奉仕者のように擬装したとしても、不思議ではない。彼らの最期は、そのしわざに合ったものとなろう。

11:16 繰り返して言うが、だれも、わたしを愚か者と思わないでほしい。もしそう思うなら、愚か者あつかいにされてもよいから、わたしにも、少し誇らせてほしい。

11:17 わたしがこれから話すことは、主の御心に従ってではなく、愚か者のように誇れると確信して話すのです。

11:18 多くの者が肉に従って誇っているので、わたしも誇ることにしよう。

11:19 賢いあなたがたのことだから、喜んで愚か者たちを我慢してくれるでしょう。

11:20 実際、あなたがたはだれかに奴隷にされても、食い物にされても、取り上げられても、横柄な態度に出られても、顔を殴りつけられても、我慢しています。

11:21 言うのも恥ずかしいことですが、わたしたちの態度は弱すぎたのです。だれかが何かのことであえて誇ろうとするなら、愚か者になったつもりで言いますが、わたしもあえて誇ろう。

11:22 彼らはヘブライ人なのか。わたしもそうです。イスラエル人なのか。わたしもそうです。アブラハムの子孫なのか。わたしもそうです。

11:23 キリストに仕える者なのか。気が変になったように言いますが、わたしは彼ら以上にそうなのです。苦勞したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。

11:25 鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂ったこともありました。

11:26 しばしば旅をし、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、

11:27 苦勞し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食わずにおり、寒さに凍え、裸でいたこともありました。

11:28 このほかにまだまだあるが、その上に、日々わたしに迫るやっかい事、あらゆる教会についての心配事があります。

Ⅱ コリ 12:7~10 (新共同訳)

12:7 また、あの啓示された事があるに

11:17 いま言うことは、主によって言うのではなく、愚か者のように、自分の誇とすることを信じきって言うのである。

11:18 多くの人が肉によって誇っているから、わたしも誇ろう。

11:19 あなたがたは賢い人たちのだから、喜んで愚か者を忍んでくれるだろう。

11:20 実際、あなたがたは奴隷にされても、食い倒されても、略奪されても、いばられても、顔をたたかれても、それを忍んでいる。

11:21 言うのも恥ずかしいことだが、わたしたちは弱すぎたのだ。もしある人があえて誇るなら、わたしは愚か者になつて言うが、わたしもあえて誇ろう。

11:22 彼らはヘブル人なのか。わたしもそうである。彼らはイスラエル人なのか。わたしもそうである。彼らはアブラハムの子孫なのか。わたしもそうである。

11:23 彼らはキリストの僕なのか。わたしは気が狂ったようになって言う、わたしは彼ら以上にそうである。苦勞したことはもっと多く、投獄されたことももっと多く、むち打たれたことは、はるかにおびただしく、死に面したこともしばしばあった。

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、

11:25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、そして、一昼夜、海の上を漂ったこともある。

11:26 幾たびも旅をし、川の難、盗賊の難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、

11:27 勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあった。

11:28 なおいろいろの事があった外に、日々わたしに迫って来る諸教会の心配ごとがある。

Ⅱ コリ 12:7~10 (口語訳)

12:7 そこで、高慢にならないように、わ

もすばらしいからです。それで、そのために思い上がることをないようにと、わたしの身に一つのとげが与えられました。それは、思い上がらないように、わたしを痛めつけるために、サタンから送られた使いです。

12:8 この使いについて、離れ去らせてくださるように、わたしは三度主に願いました。

12:9 すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

12:10 それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。

わたしの肉体に一つのとげが与えられた。それは、高慢にならないように、わたしを打つサタンの使なのである。

12:8 このことについて、わたしは彼を離れ去らせて下さるようにと、三度も主に祈った。

12:9 ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。

12:10 だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。

木曜日 9月17日 悔い改めない人々への訴え

Ⅱコリント12:14～13:10でパウロは、三度目の訪問について、コリントの教会に伝えています(Ⅱコリ 12:14, 13:1)。彼は、自分が偽使徒の誰にも劣らないことをすでに示し、今や、再びコリントを訪れて悔い改めない教会員たちを立ち直らせることに自信を持っていました。実際、それが訪問のおもな目的の一つでした。パウロの行いも言葉も、すべては教会を造り上げるためのものでした(同 12:19)。

問5 Iコリント 12:20、21 を読んでください。コリントの教会の霊的な状態を脅かしていたのは、どんな罪でしたか。

Ⅱコリント12:20、21に挙げられている罪のリストは、パウロの手紙のほかの箇所(ロマ 1:29～31、ガラ 5:19～21)に見られる罪のリストと似ています。最初の二つはIコリント3:3に登場しており、パウロはコリントの教会員の間の嫉妬と争いに言及しています。パウロは、三度目の訪問の時にも状況があまり変わっていないのではないかと心配していました。「わたしは心配しています。そちらに行ってみると、あなたがたがわたしの期待していたような人たちではな……い、ということにならないだろうか」[口語訳「わたしは、こんな心配をしている。わたしが行ってみると、もしかしたら、あなたがたがわたしの願っているような者ではな……いことになりはすまいか」]と、彼は言い、また逆に、「わたしの方もあなたがたの期待どおりの者ではない、ということにならないだろうか」[口語訳「わたしも、あなたがたの願っているような者でな

いことになりはすまいか」(Ⅱコリ 12:20)とも言っています。これは、パウロが「キリストの優しさと心の広さをもって」[口語訳「キリストの優しき、寛大さをもって」](同 10:1) 彼らに対処するのではなく、「すべての不従順を罰する用意ができて(る)」[口語訳「すべて不従順な者を処罰しようと、用意している」](同 10:6)という意味です。

パウロのおもな懸念は、「不潔な行い、みだらな行い、ふしだらな行い」[口語訳「汚れと不品行と好色」](同 12:21)に関わっていた教会員が悔い改めていないかもしれないということでした。そして、このような罪こそが教会に分裂を引き起こすのです。

次にパウロは、罪を犯した信徒を立ち直らせるための教会の懲戒の役割に焦点を合わせます(同 13:1~4)。弱さは、罪深い生き方の言い訳になりません。勝利の人生を送りたいと願う人は、力を得ることができます(同 13:4)。コリントの信徒の中に性的な罪を犯している者がいた事実は、神の力が彼らの生活の中で現実のものとなっていなかったことを示しています。パウロは、彼らが悔い改め、従順をもたらす力を経験してほしいと願っていました。彼らを懲戒することは、最も望んでいないことでした。「わたしたちは、あなたがたがどんな悪も行わないようにと、神に祈っています。……あなたがたが善を行うためなのです。……あなたがたが完全な者になることをも、わたしたちは祈っています」[口語訳「わたしたちは、あなたがたがどんな悪をも行わないようにと、神に祈る。……あなたがたに良い行いをしてもらいたいためである。……わたしたちが特に祈るのは、あなたがたが完全に良くなってくれることである」](同 13:7, 9)と、彼は言っています。なんと美しい祈りでしょう！

【参考】英語テキストにある英文

Read 2 Corinthians 13:5. What does it mean to be in the faith? How can you know that you are in the faith?

Ⅱコリント13:5を読んでください。「信仰をもって生きている」[口語訳「信仰がある」]とはどういう意味でしょうか。自分が信仰をもって生きている(信仰がある)ことを、どうすれば知ることができるでしょうか。

86

Ⅱコリ 12:14~21 (新共同訳)

12:14 わたしはそちらに三度目の訪問をしようと準備しているのですが、あなたがたに負担はかけません。わたしが求めているのは、あなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身だからです。子は親のために財産を蓄える必要はなく、親が子のために蓄えなければならないのです。

12:15 わたしはあなたがたの魂のために大いに喜んで自分の持ち物を使い、自分自身を使い果たしましょう。あなたがたを愛すれば愛するほど、わたしの方はま

Ⅱコリ 12:14~21 (口語訳)

12:14 さて、わたしは今、三度目にあなたがたの所に行く用意をしている。しかし、負担はかけないつもりである。わたしの求めているのは、あなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身なのだから。いったい、子供は親のために財をたくわえて置く必要はなく、親が子供のためにたくわえて置くべきである。

12:15 そこでわたしは、あなたがたの魂のためには、大いに喜んで費用を使い、また、わたし自身をも使いつくそう。わたしがあなたがたを愛すれば愛するほ

すまず愛されなくなるのでしょうか。

12:16 わたしが負担をかけなかったとしても、悪賢くて、あなたがたからだまし取ったということになっています。

12:17 そちらに派遣した人々の中のだれによって、あなたがたをだましたでしょうか。

12:18 テトスにそちらに行くように願い、あの兄弟を同伴させましたが、そのテトスがあなたがたをだましたでしょうか。わたしたちは同じ霊に導かれ、同じ模範に倣って歩んだのではなかったのですか。

12:19 あなたがたは、わたしたちがあなたがたに対し自己弁護をしているのだと、これまでずっと思ってきたのです。わたしたちは神の御前で、キリストに結ばれて語っています。愛する人たち、すべてはあなたがたを造り上げるためなのです。

12:20 わたしは心配しています。そちらに行ってみると、あなたがたがわたしの期待していたような人たちではなく、わたしの方もあなたがたの期待どおりの者ではない、ということにならないだろうか。争い、ねたみ、怒り、党派心、そして、陰口、高慢、騒動などがあるのではないだろうか。

12:21 再びそちらに行くとき、わたしの神があなたがたの前でわたしに面目を失わせるようなことはなさらないだろうか。以前に罪を犯した多くの人々が、自分たちの行った不潔な行い、みだらな行い、ふしだらな行いを悔い改めずにいるのを、わたしは嘆き悲しむことになるのではないだろうか。

Ⅱコリ 13:1～10 （新共同訳）

13:1 わたしがあなたがたのところに行くのは、これで三度目です。すべてのことは、二人ないし三人の証人の口によって確定されるべきです。

13:2 以前罪を犯した人と、他のすべての人々に、そちらでの二度目の滞在に前もって言っておいたように、離れている今もあらかじめ言うておきます。今度そちらに行ったら、容赦しません。

ど、あなたがたからますます愛されなくなるのであろうか。

12:16 わたしは、あなたがたに重荷を負わせなかったとしても、悪がしこくて、あなたがたからだまし取ったのだと、人は言う。

12:17 わたしは、あなたがたにつかわした人たちのうちのだれかをとおして、あなたがたからむさぼり取ったでしょうか。

12:18 わたしは、テトスに勧めてそちらに行かせ、また、かの兄弟を同行させた。テトスは、あなたがたからむさぼり取ったことがあるか。わたしたちは、みな同じ心で歩いたではないか。同じ足並みで歩いたではないか。

12:19 あなたがたは、わたしたちがあなたがたに対して弁明をしているのだと、今までずっと思ってきたであろう。しかし、わたしたちは、神のみまえでキリストにあって語っているのである。愛する者たちよ。これらすべてのことは、あなたがたの徳を高めるためなのである。

12:20 わたしは、こんな心配をしている。わたしが行ってみると、もしかしたら、あなたがたがわたしの願っているような者ではなく、わたしも、あなたがたの願っているような者でないことになりはすまいか。もしかしたら、争い、ねたみ、怒り、党派心、そして、ざんげん、高慢、騒乱などがありはすまいか。

12:21 わたしが再びそちらに行った場合、わたしの神が、あなたがたの前でわたしに恥をかかせ、その上、多くの人が前に罪を犯していながら、その汚れと不品行と好色とを悔い改めていないので、わたしを悲しませることになりはすまいか。

Ⅱコリ 13:1～10 （口語訳）

13:1 わたしは今、三度目にあなたがたの所に行くとしてゐる。すべての事は、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。

13:2 わたしは、前に罪を犯した者たちやその他のすべての人々に、二度目に滞在しているとき警告しておいたが、離れている今またあらかじめ言うておく。今度行った時には、決して容赦はしない。

13:3 なぜなら、あなたがたはキリストがわたしによって語っておられる証拠を求めているからです。キリストはあなたがたに対しては弱い方ではなく、あなたがたの間で強い方です。

13:4 キリストは、弱さのゆえに十字架につけられましたが、神の力によって生きておられるのです。わたしたちもキリストに結ばれた者として弱い者ですが、しかし、あなたがたに対しては、神の力によってキリストと共に生きています。

13:5 信仰を持って生きているかどうか自分を反省し、自分を吟味しなさい。あなたがたは自分自身のことが分からないのですか。イエス・キリストがあなたがたの内におられることが。あなたがたが失格者なら別ですが……。

13:6 わたしたちが失格者でないことを、あなたがたが知るようにと願っています。

13:7 わたしたちは、あなたがたがどんな悪も行わないようにと、神に祈っています。それはわたしたちが、適格者と見なされたいからではなく、たとえ失格者と見えようとも、あなたがたが善を行うためなのです。

13:8 わたしたちは、何事も真理に逆らってはできませんが、真理のためならばできます。

13:9 わたしたちは自分が弱くても、あなたがたが強ければ喜びます。あなたがたが完全な者になることをも、わたしたちは祈っています。

13:10 遠くにいてこのようなことを書き送るのは、わたしがそちらに行ったとき、壊すためではなく造り上げるために主がお与えくださった権威によって、厳しい態度をとらなくても済むようにするためです。

ロマ 1:29～31 (新共同訳)

1:29 あらゆる不義、悪、むさぼり、悪意に満ち、ねたみ、殺意、不和、欺き、邪念にあふれ、陰口を言い、

1:30 人をそしり、神を憎み、人を侮り、高慢であり、大言を吐き、悪事をたく

13:3 なぜなら、あなたがたが、キリストのわたしにあって語っておられるという証拠を求めているからである。キリストは、あなたがたに対して弱くはなく、あなたがたのうちにあって強い。

13:4 すなわち、キリストは弱さのゆえに十字架につけられたが、神の力によって生きておられるのである。このように、わたしたちもキリストにあって弱い者であるが、あなたがたに対しては、神の力によって、キリストと共に生きるのである。

13:5 あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。それとも、イエス・キリストがあなたがたのうちにおられることを、悟らないのか。もし悟らなければ、あなたがたは、にせものとして見捨てられる。

13:6 しかしわたしは、自分たちが見捨てられた者ではないことを、知っていてもらいたい。

13:7 わたしたちは、あなたがたがどんな悪も行わないようにと、神に祈る。それは、自分たちがほんとうの者であることを見せるためではなく、たといわたしたちが見捨てられた者のようになっても、あなたがたに良い行いをしてもらいたいためである。

13:8 わたしたちは、真理に逆らっては何をする力もなく、真理にしたがえば力がある。

13:9 わたしたちは、自分は弱くても、あなたがたが強ければ、それを喜ぶ。わたしたちが特に祈るのは、あなたがたが完全に良くなってくれることである。

13:10 こういうわけで、離れていて以上のようなことを書いたのは、わたしがあなたがたの所に行ったとき、倒すためではなく高めるために主が授けて下さった権威を用いて、きびしい処置をする必要がないようにしたためである。

ロマ 1:29～31 (口語訳)

1:29 すなわち、彼らは、あらゆる不義と悪と貪欲と悪意とにあふれ、ねたみと殺意と争いと詐欺と悪念とに満ち、また、ざん言する者、

1:30 そしる者、神を憎む者、不遜な者、高慢な者、大言壮語する者、悪事をたく

み、親に逆らい、
1:31 無知、不誠実、無情、無慈悲です。

ガラ 5:19～21 (新共同訳)

5:19 肉の業は明らかなです。それは、姦淫、わいせつ、好色、
5:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、
5:21 ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのもです。以前言っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはできません。

I コリ 3:3 (新共同訳)

3:3 相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしません。

II コリ 10:1～6 (新共同訳)

10:1 さて、あなたがたの間で面と向かっては弱腰だが、離れていると強硬な態度に出る、と思われている、このわたしパウロが、キリストの優しさと心の広さをもって、あなたがたに願います。

10:2 わたしたちのことを肉に従って歩んでいると見なしている者たちに対しては、勇敢に立ち向かうつもりです。わたしがそちらに行くときには、そんな強硬な態度をとらずに済むようにと願っています。

10:3 わたしたちは肉において歩んではいますが、肉に従って戦うものではありません。

10:4 わたしたちの戦いの武器は肉のものではなく、神に由来する力であって要塞も破壊するに足ります。わたしたちは理屈を打ち破り、

10:5 神の知識に逆らうあらゆる高慢を打ち倒し、あらゆる思惑をとりこにしてキリストに従わせ、

10:6 また、あなたがたの従順が完全なものになるとき、すべての不従順を罰する用意ができています。

らむ者、親に逆らう者となり、
1:31 無知、不誠実、無情、無慈悲な者となっている。

ガラ 5:19～21 (口語訳)

5:19 肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、
5:20 偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、
5:21 ねたみ、泥酔、宴楽、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言うておく。このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない。

I コリ 3:3 (口語訳)

3:3 あなたがたはまだ、肉の人だからである。あなたがたの間に、ねたみや争いがあるのは、あなたがたが肉の人であって、普通の人間のように歩いているためではないか。

II コリ 10:1～6 (口語訳)

10:1 さて、「あなたがたの間にいて面と向かってはおとなしいが、離れていると、気が強くなる」このパウロが、キリストの優しさ、寛大さをもって、あなたがたに勧める。

10:2 わたしたちを肉に従って歩いているかのように思っている人々に対しては、わたしは勇敢に行動するつもりであるが、あなたがたの所では、どうか、そのような思いきったことをしないですむようでありたい。

10:3 わたしたちは、肉にあって歩いてはいるが、肉に従って戦っているのではない。

10:4 わたしたちの戦いの武器は、肉のものではなく、神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである。わたしたちはさまざまな議論を破り、

10:5 神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、

10:6 そして、あなたがたが完全に服従した時、すべて不従順な者を処罰しようと、用意しているのである。

「主は、過去の誤りや過ちが繰り返されないよう、ご自分の民を守っておられる。これまでも常に偽教師は数多く存在し、誤った教理や不道德な行いを唱え、偽りの原則に基づき、巧妙に覆い隠された欺瞞的な方法で働き、できれば選民さえも惑わそうと努めてきた」(『アドベント・レビュー・アンド・サバス・ヘラルド』1904年1月7日号、英文)。

【参考】—— Ellen G. White, in *The Advent Review and Sabbath Herald*, January 7, 1904.

“The Lord is guarding his people against a repetition of the errors and mistakes of the past. There have always abounded false teachers who, advocating erroneous doctrines and unholy practices, and working upon false principles in a most specious, covered, deceptive manner, have endeavored to deceive, if possible, the very elect.”

「主は、私たちが試されることを意図しておられる。それは、私たちが生ける御言葉を綿密に吟味し、自分が信仰を持って生きているかどうか、確認する必要性を知るためである。真理を信じていると主張する多くの人が、『わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必要な物はない』と言って、安楽にふけている」(『著者と編集者への勧告』36ページ、英文)。

【参考】—— Ellen G. White, *Counsels to Writers and Editors*, p. 36.

“The Lord designs that our opinions shall be put to the test, that we may see the necessity of closely examining the living oracles to see whether or not we are in the faith. Many who claim to believe the truth have settled down at their ease, saying, ‘I am rich, and increased with goods, and have need of nothing.’ ”

「人は、真理がはっきりと示されているにもかかわらず、誤りを受け入れてしまう。しかし、もし彼らが自分の考えの正しさを証明するために、自分の教理の光に照らして神の言葉を読むのではなく、自分の教理を神の言葉に照らし合わせるならば、彼らは闇や盲目の中を歩むことも、誤りを心に抱くこともないだろう。多くの人は聖書の言葉に、都合のよい意味を与え、神の言葉を誤って解釈することで自らを惑わし、他者を欺いている。神の言葉の研究に取り組む際には、謙虚な心で臨むべきであり、あらゆる利己心や独創性への愛着は捨て去るべきである。長年抱いてきた意見を、絶対に正しいものと見なしてはならない」(『著者と編集者への勧告』36、37ページ、英文)。

【参考】—— Ellen G. White, *Counsels to Writers and Editors*, pp. 36, 37.

“Men entertain errors, when the truth is clearly marked out; and if they would but bring their doctrines to the word of God, and not read the word of God in the light of their doctrines, to prove their ideas right, they would not walk in darkness and blindness, or cherish error. Many give the words of Scripture a meaning that suits their own opinions, and they mislead themselves and deceive others by their misinterpretations of God’s word. As we take up the study of God’s word, we should do so with humble hearts. All selfishness, all love of originality, should be laid aside. Long-cherished opinions must not be regarded as infallible.”

話し合いのための質問

- ① IIコリント 10:1～6 を読み直してください。神の真理のための霊的な「戦い」に立ち向かうパウロの戦略は、どのようなものですか。また、私たちはその戦略を自分自身の霊的な戦いに、どう適用することができるでしょうか。
- ② 聖書は、終わりが来る前に多くの偽教師が人々を真理から引き離そうとするだろうと述べています。あなたの所属教会は、(同じ教会内にさえいるかもしれない)偽教師に教会員が惑わされないようにするため、どんなことができますか。このことは、教会の使命を果たすうえで、なぜ重要なのでしょうか。
- ③ なぜパウロは、長い苦しみのリスト(IIコリ 11:16～33)を誇る必要があると考えたのでしょうか。また、「主を誇る」とは、どういう意味でしょうか。
- ④ 信仰を持って生きているかどうかを確かめるために、教会員が自分自身を吟味することは、なぜ重要なのですか(IIコリ 13:5)。そうすることで、どんな違いが生じるでしょうか。

87

【参考】副読本にある《概要》を転載します。

パウロがコリントの教会に仕えているとき、彼は、彼の権威を疑い、福音の純粹さから教会を遠ざけようとする偽りの教師たちに直面しました。彼は、これが単なる指導者同士の陰謀以上のものであり、霊の戦いであると理解していました。霊の戦いは、キリストの柔和さと優しさだけでなく、そのような争闘に必要な確固たる意志で戦わなければならないと、パウロは教えています。結局、わたしたちの闘いは、血肉を相手にするものではなく、悪の諸霊に対するものだからです(エフェソ[エペソ]6:12)。

この霊の戦いにおいて、勝利が私たちの強さや知恵の結果ではなく、私たちの中に働き、私たちを通してなされる神の御業の実であることを、私たちは認識しなければなりません。最終的には、これは神の戦いです。神は偽りの教師たちの行いを見ており、彼らとその教えに裁きを下さすでしょう。それでも、神は私たちにこの戦いで役割を果たすよう呼びかけています。イエスが私たちのために苦しまれたように、私たちの役割が苦しみを招くことがあります。最終的に、罪を犯す兄弟姉妹と接する際、私たちは彼らに悔い改めを呼びかけなければなりません。もし彼らが拒否した場合は、教会の規律が愛と祈りをもって適用されなければなりません。

IIコリ 10:1～6 (新共同訳)

10:1 さて、あなたがたの間で面と向かっては弱腰だが、離れていると強硬な態度に出る、と思われている、このわたしパウロが、キリストの優しさと心の広さをもって、あなたがたに願います。

10:2 わたしたちのことを肉に従って歩んでいると見なしている者たちに対しては、勇敢に立ち向かうつもりです。わたしがそちらに行くときには、そんな強硬な態度をとらずに済むようにと願っています。

IIコリ 10:1～6 (口語訳)

10:1 さて、「あなたがたの間にいて面と向かってはおとなしいが、離れていると、気が強くなる」このパウロが、キリストの優しさ、寛大さをもって、あなたがたに勧める。

10:2 わたしたちを肉に従って歩いているかのように思っている人々に対しては、わたしは勇敢に行動するつもりであるが、あなたがたの所では、どうか、そのような思いきったことをしないですむようでありたい。

10:3 わたしたちは肉において歩いていますが、肉に従って戦うではありません。

10:4 わたしたちの戦いの武器は肉のものではなく、神に由来する力であって要塞も破壊するに足ります。わたしたちは理屈を打ち破り、

10:5 神の知識に逆らうあらゆる高慢を打ち倒し、あらゆる思惑をとりこにしてキリストに従わせ、

10:6 また、あなたがたの従順が完全なものになるとき、すべての不従順を罰する用意ができています。

Ⅱコリ 11:16～33 (新共同訳)

11:16 もう一度言います。だれもわたしを愚か者と思わないでほしい。しかし、もしあなたがたがそう思うなら、わたしを愚か者と見なすがよい。そうすれば、わたしも少しは誇ることができる。

11:17 わたしがこれから話すことは、主の御心に従ってではなく、愚か者のように誇れると確信して話すのです。

11:18 多くの者が肉に従って誇っているので、わたしも誇ることにしよう。

11:19 賢いあなたがたのことだから、喜んで愚か者たちを我慢してくれるでしょう。

11:20 実際、あなたがたはだれかに奴隷にされても、食い物にされても、取り上げられても、横柄な態度に出られても、顔を殴りつけられても、我慢しています。

11:21 言うのも恥ずかしいことですが、わたしたちの態度は弱すぎたのです。だけれど何かのことであえて誇ろうとするなら、愚か者になったつもりで言いますが、わたしもあえて誇ろう。

11:22 彼らはヘブライ人なのか。わたしもそうです。イスラエル人なのか。わたしもそうです。アブラハムの子孫なのか。わたしもそうです。

11:23 キリストに仕える者なのか。気が変になったように言いますが、わたしは彼ら以上にそうなのです。苦勞したことはもっと多く、投獄されたことももっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。

10:3 わたしたちは、肉にあって歩いてはいるが、肉に従って戦っているのではない。

10:4 わたしたちの戦いの武器は、肉のものではなく、神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである。わたしたちはさまざまな議論を破り、

10:5 神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、

10:6 そして、あなたがたが完全に服従した時、すべて不従順な者を処罰しようと、用意しているのである。

Ⅱコリ 11:16～33 (口語訳)

11:16 繰り返して言うが、だれも、わたしを愚か者と思わないでほしい。もしそう思うなら、愚か者あつかいにされてもよいから、わたしにも、少し誇らせてほしい。

11:17 いま言うことは、主によって言うのではなく、愚か者のように、自分の誇とすることを信じきって言うのである。

11:18 多くの人が肉によって誇っているから、わたしも誇ろう。

11:19 あなたがたは賢い人たちのだから、喜んで愚か者を忍んでくれるだろう。

11:20 実際、あなたがたは奴隷にされても、食い倒されても、略奪されても、いばられても、顔をたたかれても、それを忍んでいる。

11:21 言うのも恥ずかしいことだが、わたしたちは弱すぎたのだ。もしある人があえて誇るなら、わたしは愚か者になって言うが、わたしもあえて誇ろう。

11:22 彼らはヘブライ人なのか。わたしもそうである。彼らはイスラエル人なのか。わたしもそうである。彼らはアブラハムの子孫なのか。わたしもそうである。

11:23 彼らはキリストの僕なのか。わたしは気が狂ったようになって言う、わたしは彼ら以上にそうである。苦勞したことはもっと多く、投獄されたことももっと多く、むち打たれたことは、はるかにおびただしく、死に面したこともしばしばあった。

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。

11:25 鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂ったこともありました。

11:26 しばしば旅をし、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、

11:27 苦勞し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食えずにあり、寒さに凍え、裸でいたこともあり

ました。このほかにもまだあるが、その上に、日々わたしに迫るやっかい事、あらゆる教会についての心配事があります。

11:29 だれかが弱っているなら、わたしは弱らないでいられるでしょうか。だれかがつまずくなら、わたしが心を燃やさないでいられるでしょうか。

11:30 誇る必要があるなら、わたしの弱さにかかわる事柄を誇りましょう。

11:31 主イエスの父である神、永遠にほめたたえられるべき方は、わたしが偽りを言っていないことをご存じです。

11:32 ダマスコでアレタ王の代官が、わたしを捕らえようとして、ダマスコの人たちの町を見張っていたとき、

11:33 わたしは、窓から籠で城壁づたいにつり降ろされて、彼の手を逃れたのでした。

Ⅱコリ 13:5 (新共同訳)

13:5 信仰を持って生きているかどうか自分を反省し、自分を吟味しなさい。あなたがたは自分自身のことが分からないのですか。イエス・キリストがあなたがたの内におられることが。あなたがたが失格者なら別ですが……。

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、

11:25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、そして、一昼夜、海上を漂ったこともある。

11:26 幾たびも旅をし、川の難、盗賊の難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、

11:27 勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあった。

11:28 なおいろいろの事があった外に、日々わたしに迫って来る諸教会の心配ごとがある。

11:29 だれかが弱っているのに、わたしも弱らないでおれようか。だれかが罪を犯しているのに、わたしの心が燃えないでおれようか。

11:30 もし誇らねばならないのなら、わたしは自分の弱さを誇ろう。

11:31 永遠にほむべき、主イエス・キリストの父なる神は、わたしが偽りを言っていないことを、ご存じである。

11:32 ダマスコでアレタ王の代官が、わたしを捕えるためにダマスコ人の町を監視したことがあったが、

11:33 その時わたしは窓から町の城壁づたいに、かごでつり降ろされて、彼の手からのがれた。

Ⅱコリ 13:5 (口語訳)

13:5 あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。それとも、イエス・キリストがあなたがたのうちにおられることを、悟らないのか。もし悟らなければ、あなたがたは、にせものとして見捨てられる。